

小川響子&秋元孝介

デュオ・リサイタル

AO

DUO

葵トリオメンバーの秋元孝介と
小川響子がデュオで登場—
晩年のシューマンの内面に漂う
緊密性をどこのように
表現するのか！

Program

ベートーヴェン:ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 第2番 イ長調 Op.12-2
マルティヌー:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 H.208
シューマン:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 ニ短調 Op.121

*プログラム等は、やむを得ない事情により、変更になる場合がございます。

2023年5月24日(水)

開場18:30/開演19:00

入場料:会員4,500円(座席指定可)/

一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

Shibuya
Mitake
Salon

123
Shibuya Mitake Salon (vol.139)

©Karol Miczka



小川響子&秋元孝介 デュオ・リサイタル

123
Shibuya Mitake Salon (vol.139)

2023年

5月24日(水)

開場 18:30/開演 19:00

入場料: 会員4,500円(座席指定可)/

一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

小川響子 (OGAWA Kyoko) Violin

東京藝術大学、同大学院修士課程修了。第10回東京音楽コンクール第1位、聴衆賞受賞。小澤征爾、アンネ・ゾフィムター、原田幸一郎、磯村和英、池田菊衛、小山実稚恵、山崎伸子、川本嘉子と共演。サントリーホール室内楽アカデミー第3、4期フェロー。

2021年4月までベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミーに在籍。

葵トリオという類いまれなピアノトリオが日本から誕生し、われわれ日本人の耳目に親しく接することができるようになってきていること、考えてみればこのような幸運はかつてなかったことであり、この幸運に感謝すべきなのだろう。

ピアノトリオであるので三位一体は当然のことかも知れないが、改めてこの三位一体の魅力を見つめてみると、秋元孝介(ピアノ)、小川響子(ヴァイオリン)、伊東裕(チェロ)の三人で構成されているが、三人とも、ソリストとしても超一級の異彩を放っている。

秋元氏の独自の音の響き、深い構成力、そして揺るぎない独特のテンポ感には絶対的な安心感がある。

彼のピアノを聴いていると、ピアニストというよりマエストロと呼びたくなるほどの多彩さ、才気を感じる。

そして、独自の、美しくも静かな先導役を果たすことが多い小川響子氏の魅力的なヴァイオリンはため息が出るほど美しい。

花の香りが蜜蜂を引きつけるように、小川氏の美しいヴァイオリンが独自の存在感を放ち、音楽の行く手を予感させ、先導していく。

慈しみ深く、自由に、時に靈感さえ感じるような深みのある歌い方に、どんな作品でも例外なく、その深みに惹き込まれていくから不思議だ。

そして気がつけば、伊東裕氏の自由自在なチェロが、まろやかに、あるときは大きく膨らみ、あるときは小さく緊張感をもって引き締め、全体をやさしく包んでいる。

葵トリオメンバーの秋元孝介と小川響子がデュオで登場——

晩年のシューマンの内面に漂う“緊密性”をどのように表現するのか!

秋元孝介 (AKIMOTO Kosuke) Piano

東京藝術大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。第2回ロザリオ・マルシアーノ国際ピアノコンクール第2位、第10回パデレフスキ国際ピアノコンクール特別賞などを受賞。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。現在は東京藝術大学大学院博士課程に在籍しながら日本とドイツで演奏活動を行っている。

彼らのサウンドは、弦の音がピアノの音に、ピアノの音が弦の音に聴こえ、調和して溶け合い、一体となって作品の魅力を醸し出してくれる。

これこそが葵トリオのサウンドでしか経験できない、縦の棒と横の棒とその交わった中心という三位一体、十字架の調和と表現したらどうだろう。

ともかく、ピアノトリオというジャンルのクラシック音楽の魅力をわれわれの前に大きく開け放ち、示してくれたのが現代の日本に現れた葵トリオだ。

そんな彼らが今回はデュオ(秋元孝介氏と小川響子氏の“A Oデュオ”として登場)で取り組む目玉となる作品がシューマンのヴァイオリンとピアノのためのソナタ第2番二短調 Op.121である。

この作品は、晩年のシューマンの内面にあったさまざまな情念が絡み合い、主張し合い、緊張感のある、まさに緊密な世界観を表現している大作だ。

シューマンはこれをなんとたった8日間で書き上げたというのだから、シューマンの類稀なる天才っぷりもわかる。

他に、ベートーヴェンのピアノとヴァイオリンのためのソナタ第2番イ長調 Op.12-2や、マルティヌーのヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 H. 208など、思慮深さとこだわりを見せる選曲に、“葵トリオのレパートリー”を彷彿とさせる内容となっている。

こうした室内楽の異色な大作を濃密な空間であるサロンで体験できることは実に興味深いことではないだろうか。(渋谷美竹サロン)



日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

渋谷美竹サロン(美竹清花さろん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。



誕生。
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分
クラシック音楽サロン、

大好評につき
サロンメンバーズ
追加募集中!



●お問い合わせ

株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03 (3409) 0188

公式Webサイト

